

参考資料として下さい。211201 HLF

△佐野敏幸▽手磨き水晶／百八珠本連念珠ほか

清浄な煌めきを放つ、匠ならではの58面カット



水晶研磨職人であり「現代の工」であった父の在りし技を磨き、現職人として研鑽を継承する数少ない職人である佐野敏幸さん。

澄んだ煌めきを放つ水晶が高貴な雰囲気漂わせる念珠と腕輪。主珠だけでなく、親珠、四天珠、二天珠などすべてが、連摺りと呼ばれる精妙な技法を駆使した逸品である。手がけたのは、現在では数少ない連摺りを継承する研磨職人佐野敏幸さんだ。

連摺りとは、水晶などを一度に何個も磨くことができるよう、10年に甲府で考案された技法。8mmほどの珠なら、一度に約30個を磨くことができるという。



鉄棒に通して連ねた石を皿の上で磨く。角度を変え、さらに面を磨き、58面に仕上げていく。

まず、細長い鉄の棒に穴を開けたサイコロ状の水晶を通し、荒摺りを行う。次に棒から外して合成樹脂で水晶を固定し、荒摺りした皿の上で石を磨いていく。この角度角度と変えていくのが、匠の技。手間暇をかけて水晶の魅力を引き出しているのである。

紹介する念珠4種は、この繊細かつシャープなカットで、球体とは違った水晶の輝きを実現したもの。石の一つ一つに、熟練職人ならではの卓越した技術が窺える。

Z145_071 (120171)

A



B



A、Bは

**Zekoo
限定品**

主珠は58面という、百種類以上あるカット法のうち、特に難しいカットに施した水晶を贅沢に使用している。

当社以外では入手できません

御仏の心を表現した手磨き水晶の輝き。

Aの本連念珠は、他の数と同じ108個の珠を使い、親珠と四天珠に神秘的な紫水晶を配した。Bの腕輪念珠は、仏事だけではなく、日常使いにもお薦めである。

C、Dの片手念珠は、108個の半分である54個の水晶を連ねたもの。どちらも水晶と紫水晶の組み合わせが美しい。

合わせが高貴な雰囲気漂わせている。Cは主珠に水晶を採用。水晶ならではの清浄な煌めきは、気品がありながらどこか儼かな印象だ。独特の魅力を放つDの念珠は落ち着いた色合いの紫水晶を主珠に用いた。

古来、輝きある水晶の念珠は魔除けの力があるとされてきた。仏具としてはもちろん、お守りとしても身に付けていただきたい。

Z125WZ_07 (092991)

D



煩悩の数108の半分である54個の58面カット水晶を連ねた片手念珠。親珠、二天珠には58面カットの紫水晶をあしらひ、気品ある儼かな雰囲気に仕上げた。

■お申込みはフリーダイヤル 0120-003-100 広告番号 136131

6